

女子学生の下着衣の選択と個人的特性との関連について
 —スカートスタイルとパンツスタイル—
 華頂短大 西原容以

目的 人の被服行動を説明する手がかりを得る為には、女子短大生を対象として、被服に対する意識や行動について調査を重ねて来た。今回は通学服について、下着衣(スカートスタイルとパンツスタイル)の選択と、個人特性(服装に対する意識・行動要因、服装に対する自由感、社会的性格、似合う服のイメージ、身体満足度、基本属性)との関連を数量的に考察する事を目的とする。

方法 女子短大生ノケケ名を対象にして、昭和67年7月、集団実施法によって、通学服に関する調査を行った。下着衣の形態について、通学服に、主としてスカートスタイルを選択する者、どちらかというところスカートスタイルを選択する者、どちらかというところズボンスタイルを選択する者の3グループに分け、個人的特性とのクロス集計を行った。服装に対する意識・行動要因を因子分析して、13因子を抽出した。クロス集計の比較的値の高い着服同調、着装堅実、購入実用、着装自信、等の項目の中から6項目、似合う服のイメージより8項目、自由感より8項目、身体満足度より2項目、その他19項目、計35項目を説明変数とし、下着衣の形態による3グループを外的基準として、数量化Ⅱ類による分析を行った。

結果 数量化Ⅱ類の結果より、 χ^2 1程の相関比が0.6069、 χ^2 2程の相関比が0.5301で、説明変数として選んだ個人的特性が、下着衣の選択の判別にかなり寄与する事が判明した。 χ^2 1程と χ^2 2程に対する個人得点及び、ケース得点のグループ別度数分布の果種百分率より χ^2 1程は主スカートスタイル選択者と他と、 χ^2 2程は両用者と他と判別。